

平成8年度

平塚市美術館年報

ANNUAL REPORT

The Hiratsuka Museum of Art 1996

# 目次

奥面全

企画展	4
常設展	8
教育普及	13
会場写真	25
保存・修復	27
修復作品	27
収蔵庫虫害調査	27
地震対策	28
収蔵作品	29
平塚市展	30
統計	31
沿革	34
組織・運営	35
美術館協議会	35
組織・職員名簿	36



## TOKYO POP展

会 期 平成8年4月27日(土)～5月26日(日)

主 催 平塚市美術館

80年代後半から90年代にかけて、さまざまな情報を世界に発信するようになった東京、その美術における状況を、16人の最も活動的と思われる若手作家の作品で俯瞰した。「ポップ」という言葉での類別どおり、彼らは漫画や商品など日常の様々なものからイメージを借用し、制作を行っている。しかし一見明るさを感じるその作品からは、現代日本のもつ「グロテスク」で「マニアック」な周縁的な世界、またそれをとらえる「アイロニカル」な眼差しがうかがえ、ただ明るく楽しいだけではない、美術の複雑で多様な世界をみることができる。

このような作品を総称して TOKYO POP と題した本展は、現代日本のエネルギーで多彩なアートの世界を検証した革新的なものであり、屋外からテーマホール、ビデオ上映等により全館を使って行われた展示は、日頃理解することが難しいと思われがちな現代美術への格好の入門の場ともなった。

展覧会図録 大きさ 29.7×22.4cm

頁 数 113頁

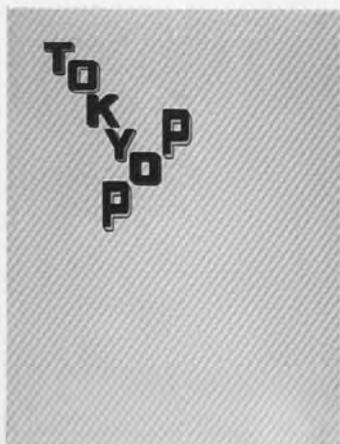
小松崎拓男 「ぼくらの時代の美術 —— 先駆けるものたちへ」

村上 隆 「ART is DOB.」

太郎千恵蔵 「客観化から、主体化へ ステイトメント1991-1996」

関連事業 明和電機パフォーマンス 5月25日

ギャラリートーク 毎金曜日



## 生誕100年記念

# 椿 貞 雄 展

会 期 平成8年7月27日(土)～8月25日(日)

主 催 平塚市美術館・生誕100年記念椿貞雄展実行委員会

本展は、椿貞雄の生誕100年を機にその画業を通観するものとして、ゆかりの地(山形・湘南・千葉)の3館の美術館(山形美術館、平塚市美術館、千葉県立美術館)によって実行委員会を組織して開催された。出品点数は、油彩128点、水彩・素描14点、墨彩15点、資料16点を数え、その制作年代も上京した大正3年(1914)から没した昭和32年(1957)まで及ぶものであり、また本展覧会によって初めて公開される作品を多数含むなど、規模、内容ともに椿貞雄の全貌を窺い知るにたる初めての本格的回顧展となった。とくに油彩画には、大正期の制作にかかるもの35点のうち、草土社出品作13点、巽画会、流逸荘個展、日本美術院展、春陽展などの出品作14点を含むなど、これまで詳細に検討されることのなかった椿貞雄のこの期の画風を十分に検証する機会となった。

展覧会図録 大きさ 28.0×22.5cm

頁 数 185頁

東 珠樹 「写実、その永遠なるもの—椿 貞雄の芸術」

原田 実 「椿 貞雄とその時代」

岡崎 恭一 「非礼を詫びる—椿 貞雄さんの思い出」

加藤 千明 「椿 貞雄とふるさと米沢・山形」

岡部 幹彦 「内なるものへの眼差し 椿 貞雄—鶴沼時代を中心に」

三浦 拓郎 「千葉県船橋尋常高等小学校時代の椿 貞雄」

〈資料文献〉 椿 貞雄「東西絵画の相違及び現代油絵の東洋化と自分の仕事に就いて」



## 銅版画ひとすじの歩み

# 菅野陽回顧展

会 期 平成8年9月14日(土)～10月20日(日)

主 催 平塚市美術館

後 援 神奈川新聞社

日本版画協会展をはじめ、戦後の版画界で活躍し、平成7年茅ヶ崎で没した銅版画家菅野陽(1919-1995)の回顧展を開催した。

菅野陽は、1919年(大正8)、父の赴任先の台湾台北庁に生まれた。画家を志し、東京美術学校日本画科に学ぶが、1943年(昭和18)徴兵猶予中止のため繰り上げ卒業した学徒出陣組として応召した。

戦後は、前衛美術会の創立に参加し、日本画の絵筆を油彩画の筆に持ちかえ、前衛美術会展、日本アンデパンダン展、自由美術家協会展などに出品した。

1954年(昭和29)、関野準一郎のもとに通い銅版画の魅力に取りつかれ、翌年から日本版画協会に出品を始め、1956年(昭和31)会員となったが、1963年(昭和38)には日本版画協会、前衛美術会を退会、その後は個展を中心に作品を発表しつづけた。

主な著書に『銅版画の技法』『日本銅版画の研究 近世』がある。

本展覧会は、初期から晩年までの版画を中心に、日本画、油彩画を含む165点に版画集15点を加え、菅野陽の画業を回顧した。

展覧会図録 大きさ 24.3×18.4cm

頁 数 130頁

陰里 鉄郎 「菅野 陽について」

深沢 幸雄 「菅野 陽さん」

石渡 尚 「版画家 菅野 陽」



## 平塚市美術館開館5周年記念展

# ミレーとバルビゾン派の画家たち

会期 平成8年11月9日(土)～12月22日(日)

主催 平塚市美術館・毎日新聞社

後援 外務省・文化庁・フランス大使館・フランス美術館総局

協力 日本航空

本展は、開館5周年を記念して実施された。監修者として、バルビゾン派美術館館長のマリー＝テレーズ・カイユ女史を迎え、彼女の企画にもとづき、ミレー在在期のバルビゾンに焦点をあてながら、同地で新しい風景画芸術を育んだ画家たちの油彩画86点、素描・版画15点、彫刻2点、ほか資料写真を含む計148点をフランスならびにアメリカの各美術館から借用し、展示した。

バルビゾン派の画家たちの自然観察と写生にもとづく作品が、ロマン主義から写実主義そして印象主義の誕生に重要な役割を果たしたことはあらためていうまでもないが、本展では、その芸術を、ミレーの代表作「羊飼いの少女」(オルセー美術館)をはじめ、コロー、ルソー、ディアズほかの画家たちの優れた作品により紹介した。

展覧会図録 大きさ 29.7×23.5cm

頁数 212頁

序論1～7

1. マリー＝テレーズ・カイユ 「19世紀前半における芸術家という職業」
2. マリー＝テレーズ・カイユ 「19世紀前半のフランスにおける風景画の展開」
3. ヴァンサン・ボマレド 「コローとバルビゾン派 情熱と独立と」
4. マリー＝テレーズ・カイユ 「バルビゾン 風景、宿屋ガヌヌ、そして画家たちの村での生活」
5. マリー＝テレーズ・カイユ 「流派と画家たち」
6. マリー＝テレーズ・カイユ 「バルビゾン派の革新的テーマ」
7. ベルナール・マルボ 「写真『フォンテーヌブローの森という大きな緑の部屋に入った暗箱』」

舟木 力英 「バルビゾン派と明治期日本の洋画をめぐって」

鈴木 幹 「コローからミレーへ 徳富蘆花の関心の移行について」

喜多村明星 「明治前半期における写生風景画の受容」

関連事業 講演会 演題 「ミレーとバルビゾン派の画家たち」

講師 マリー＝テレーズ・カイユ (バルビゾン派美術館館長)

日時 平成8年11月9日(土) 午後??時

会場 講堂

ビデオ放映「ミレーとバルビゾン派の画家たち」



# 常設展示

今年度の常設展示は、3回展示替をおこなった。1回から3回までは、湘南ゆかりの作家の生年順の作品コーナーを導線の初めに設け、日本画作品、写真作品、鳥海青児作品、寄贈作品のブロックを基本構成とした。各回とも企画展の拡張にともない、展示室Ⅱの3分の2のスペースをあてた。日本画作品、湘南ゆかりの代表的作家の作品、濱谷 浩写真作品、鳥海青児作品のブロックの構成とした。

## 第1回常設展示出品目録

6月27日～10月27日

\*印は初展示作品

	No	作者	作品名	制作年	材質・技法
■洋画	1	黒田 清輝	由比ヶ浜	1897	油彩・板
	2	岸田 劉生	Aの肖像	1913	油彩・キャンバス
	3		F氏像	1914	油彩・キャンバス
	4		石垣ある道	1921	油彩・キャンバス
	5	中川 一政	椅子の少女	1916	油彩・キャンバス
	6		薔薇	不詳	油彩・キャンバス
	7	萬 鉄五郎	住吉神社風景	1909頃	油彩・板
	8		海景習作	1909頃	油彩・板
	9		雲と裸婦	1922頃	油彩・キャンバス
	10		宙腰の人	1924	油彩・キャンバス
	11		湘南風景	1926	油彩・キャンバス
	12		海岸風景	1924	油彩・キャンバス
■水墨画	*13	岸田 劉生	永日小品	1926	紙本・水墨淡彩
	*14	萬 鉄五郎	茅ヶ崎風景	1925	紙本・水墨淡彩
	*15		田園風景	1922～25頃	紙本・水墨
	*16		茅ヶ崎風景	1922	紙本・水墨
	*17		風景	1922～25頃	紙本・水墨淡彩
■日本画	18	安田 靱彦	宇治合戦図	1905	絹本着色
	19		楠公	不詳	絹本着色
	20		日食	1925	紙本着色
	21		宮本二天像	1933	絹本着色・対幅
	22	横山 大観	新蔬	1940	紙本着色
	23		不盡乃高嶺	1915	絹本着色
	24	中村 貞以	蟹	1940～50頃	絹本着色
	*25	山本 丘人	島の女	1935	絹本着色
	*26	今村 紫紅	入る日・出る月(小下絵)	1915	紙本着色
	*27		熱国之巻(小下絵)	1914頃	紙本着色
	28	益井三重子	水汲む女・牛飼う男	1914	紙本着色・対幅
	*29		先生御書見	1977	紙本着色
	30		髪	1989	紙本着色
	31	近藤 弘明	幻光-御感の藤-	1987	紙本着色・六曲一隻
	32	工藤 甲人	次郎雲	1970	紙本着色
	33	工藤 甲人	残暈図	1986	紙本着色

	No	作者	作品名	制作年	材質・技法	
■洋画	34	金子 保	裸婦	1928	油彩・キャンバス	
	35	木村 莊八	ギターを弾く男(鳥海青児)	1930	油彩・キャンバス	
	36	野口弥太郎	裸婦	1951	油彩・キャンバス	
	37	里見 勝蔵	イビサの田野	1961	油彩・キャンバス	
	38	鳥海 青児	シベリア駅路の雪	1930	油彩・キャンバス	
	39		グーベルヌマン広場	1932	油彩・キャンバス	
	40		アルジェ風景	1932	油彩・キャンバス	
	41		段々畑	1952	油彩・キャンバス	
	42		石だたみ	1962	油彩・キャンバス	
	43		川沿いの家	1954	油彩・キャンバス	
	44		果汁を吸うマヤ人	1954	油彩・キャンバス	
	45	原 精一	煙草のむ男	1936	油彩・キャンバス	
	46		たまごのある静物	1995	油彩・キャンバス	
	47		I先生肖像	1992	油彩・キャンバス	
	48	二見 利節	玄武蘇上	1972	油彩・キャンバス	
	49	井上 三綱	駆け出した牛	1956	油彩・キャンバス	
	*50	鳥海 青児	ヴェローナにて	1957	鉛筆・紙	
	*51		ピサ	1957	鉛筆・パステル・紙	
	*52		闘牛士	1957	鉛筆・パステル・紙	
	*53		闘牛士	1957	鉛筆・パステル・紙	
	*54		闘牛	1957	鉛筆・パステル・紙	
	*55	四谷十三雄	静物	不詳	油彩・キャンバス	
	*56		人物	不詳	油彩・キャンバス	
	*57		人物	不詳	油彩・キャンバス	
	*58		コンポジションNo.35	不詳	油彩・キャンバス	
	59	横地 康国	光を求める群	1968	油彩・キャンバス	
	60	島田 章三	エウローペ	1968	油彩・キャンバス	
	61	三橋兄弟治	セゴビアの古寺と民家	1968	水彩・紙	
	■彫刻	*62	山本 正道	風と少女	1990	ブロンズ
		63	澤田 政廣	甲斐駒と聖徳太子	1964	木彫
		64	中村 青田	七夕	1967	木彫
■工芸	*65	蓮田修吾郎	朱銅壺 明日香道	1972頃	銅	
	*66	芝山 吉邦	彩霞	1982	陶	
	*67		象	1984	陶	

## 第2回常設展示出品目録 10月30日～1月28日

	No	作者	作品名	制作年	材質・技法
■洋画	1	鳥海 青児	シベリア駅路の雪	1930	油彩・キャンバス
	2		水田	1936	油彩・キャンバス
	3		道化	1939	油彩・キャンバス
	4		蘇州風景	1939	油彩・キャンバス
	5		アカシア	1941	油彩・キャンバス
	6		男像	1942	油彩・キャンバス
	7		天津のフランス寺院	1942	油彩・キャンバス

No	作者	作品名	制作年	材質・技法
8		狸穴の森	1954	油彩・キャンバス
9		シルクの馬	1954	油彩・キャンバス
10		ピカドール	1958	油彩・キャンバス
11		大理石をかつぐイタリア人	1958	油彩・キャンバス
12		木心の出た法隆寺塑像	1967	油彩・キャンバス
13		男像（森田勝の顔）	1927	パステル・紙
14		裸婦	1928頃	油彩・紙
15		自画像	1929	鉛筆・紙
16		顔をかくす	1956	油彩・パステル・紙
17		石をかつぐ人	1958	鉛筆・紙
18		ピカドール# 3	1958	油彩・パステル・紙
19		ピカドール# 5	1959	油彩・パステル・紙
20	二見 利節	男鹿の景	1972	油彩・キャンバス
21		マドモアゼル美保	1973	油彩・キャンバス
*22		幻想の風景	不詳	油彩・板
*23		幻想	1960-70年代	パステル・紙
*24		幻想	1960-70年代	パステル・紙
*25		人物のいる風景	1960-70年代	パステル・紙
*26		集い	1960-70年代	パステル・紙
*27		人物	1960-70年代	パステル・紙
*28		幻想	1970年代	パステル・ルーフィング
*29		幻想	1970年代	パステル・ルーフィング
*30		トルソ	1960-70年代	パステル・油彩・紙
*31		幻想	1960-70年代	パステル・水彩・紙
*32		麦	1958頃	色鉛筆・水彩・蠟・紙
*33		麦	1958頃	色鉛筆・水彩・蠟・紙
*34		麦	1958頃	色鉛筆・水彩・蠟・紙
*35		麦	1958頃	パステル・蠟・紙
*36		麦	1958頃	墨・蠟・紙
37	井上 三綱	箱根紅葉	不詳	油彩・キャンバス
38		馬を御す	1949	油彩・キャンバス
39		牛小屋	1953	油彩・キャンバス
40		駆け出した牛	1956	油彩・キャンバス
*41		機織り	1956	油彩・キャンバス
42		仕事する女達	1957	油彩・キャンバス
43		壺	1959	混合技法・紙
44		たね	1961	混合技法・紙
45		王と妃	1961	混合技法・紙
46	原 精一	男像		油彩・キャンバス
47		たまごのある静物	1956	油彩・キャンバス
48		裸婦	19	油彩・キャンバス
49		I先生肖像	1962	油彩・キャンバス
50		女達	1963	油彩・キャンバス
*51		座る裸婦	不詳	パステル・紙
*52		足をかける裸婦	不詳	パステル・紙
*53		立て膝の裸婦	不詳	パステル・紙
*54		自画像	不詳	鉛筆・紙
*55		林武の肖像	1951	パステル・紙
*56		老人の顔	1978	鉛筆・顔

No	作者	作品名	制作年	材質・技法	
57	本荘 起	廃屋(一)	1987	油彩・キャンバス	
58		廃屋(二)	1987	油彩・キャンバス	
59		療養所のある丘	1987	油彩・キャンバス	
60	黒田 清輝	由比ヶ浜	1879	油彩・板	
61	岸田 劉生	F氏像	1914	油彩・キャンバス	
62		自画像	1917	パステル・紙	
63	中川 一政	椅子の少女	1916	油彩・キャンバス	
64	萬 鉄五郎	宙腰の人	1924	油彩・キャンバス	
65		雲と裸婦	1922頃	油彩・キャンバス	
66		海岸風景	1915	油彩・キャンバス	
67		湘南風景	1926	油彩・キャンバス	
68	林 倭衛	白い橋と緑樹	1921-26	油彩・キャンバス	
69	松本 節	柿の木の風景	1940	油彩・キャンバス	
70		自画像	1938	油彩・キャンバス	
71	木村 荘八	ギターを弾く男(鳥海青児)	1930	油彩・キャンバス	
72	中村 琢二	永浜氏像	1949	油彩・キャンバス	
73		うたい	1965	油彩・キャンバス	
74	里見 勝蔵	イビサの田野	1961	油彩・キャンバス	
75	三岸 節子	インカの壺(太陽賛歌)	1968	油彩・キャンバス	
76	島田 章三	エウローペ	1968	油彩・キャンバス	
77	朝井閑右衛門	悪霊と道化	1972	油彩・キャンバス	
78	小山 敬三	晩秋飛瀑	1977	油彩・キャンバス	
79	土井 俊泰	作品I	1960	油彩・キャンバス	
80	今村 信夫	遊び場	1966	油彩・キャンバス	
81	山崎 隆夫	凱風	1970	油彩・キャンバス	
82	鶴田 猛	機関車	不詳	油彩・キャンバス	
■日本画	83	山本 丘人	入江	1954	絹本着色
	84	工藤 甲人	樹木の詩	1956	絹本着色
	85	近藤 弘明	寂韶園	1982	絹本着色
	86	佐藤 昌美	旅の終わりに	1971	キャンバス着色
■彫刻	87	淀井 敏夫	トレドの羊飼	1967	ブロンズ

### 第3回常設展示出品目録

1月29日～

No	作者	作品名	制作年	材質・技法	
■日本画	1	今村 紫紅	老松	1911	紙本着色・軸
	2	渡辺 省亭	常盤	1895	紙本着色・軸
	3	川端 玉章	佐野常世	不詳	絹本着色・軸
	4	小出 檣重	めでたき風景	1926	紙本着色・軸
	5	安田 靱彦	寒香留古春	1920	紙本着色・軸
	6		相撲の節	1907頃	紙本着色・軸
	7	前田 青邨	秋風五丈原	1920	絹本墨画淡彩・軸
	8	山本 丘人	春近し	1952	絹本着色・軸
■書	9	田中 真洲	篆隸楷行草かな	1965	紙本・墨・六曲一隻

■洋画

No	作者	作品名	制作年	材質・技法
10	青山 義雄	バラアーチ	1990	油彩・紙
11	朝井閑右衛門	廃園において	1926	油彩・キャンバス
12	金子 保	裸婦	1928	油彩・キャンバス
13	岸田 劉生	Aの肖像	1913	油彩・キャンバス
14		石垣ある道	1921	油彩・キャンバス
15	黒田 清輝	由比ヶ浜	1879	油彩・板
16	小糸源太郎	春	1916	油彩・キャンバス
17		早春	1942	油彩・キャンバス
18	鳥海 青児	芦屋風景	1926	油彩・キャンバス
19		サンマルコの広場	1930	油彩・キャンバス
20		オランダの風景	1932	油彩・キャンバス
21		北京天壇	1941	油彩・キャンバス
22		段々畑	1952	油彩・キャンバス
23		壁の修理	1959	油彩・キャンバス
24		インカの石街	1961頃	油彩・キャンバス
25		石だたみ	1962	油彩・キャンバス
26		メキシコ人の家族	1969	油彩・キャンバス
27		果汁を吸うマヤ人	1964	油彩・キャンバス
28		根来瓶子と果物	1971	油彩・キャンバス
29		フラメンコ	1972	油彩・キャンバス
30	中川 一政	少女像	1916	油彩・キャンバス
31		椅子の女	1941	油彩・キャンバス
32	野口弥太郎	裸婦	1951	油彩・キャンバス
33	原 精一	桐生風景	1927	油彩・キャンバス
34		静物	不詳	油彩・キャンバス
35		少女	不詳	油彩・キャンバス
36		二人の浴女	1949	油彩・キャンバス
37		三人	不詳	油彩・キャンバス
38		本を見る女	1934	油彩・キャンバス
39	二見 利節	黄色い花	1951	油彩・キャンバス
40		工作机	1956	油彩・板
41		方円のある牡丹図	1974	油彩・キャンバス
42		女	不詳	油彩・キャンバス
43		裸婦のいる風景(絶筆)	1975	油彩・キャンバス
44	本荘 起	大徳寺方丈の土間	1968	油彩・キャンバス
45		建てる	1982	油彩・キャンバス
46		丹沢山塊	1990	油彩・キャンバス
47	松本 節	廃苑の夏	1934	油彩・キャンバス
48	松山 文雄	肥料会社	不詳	油彩・板
49	森田 勝	矢車艸	1928	油彩・キャンバス
50		風景	1929頃	油彩・キャンバス
51		女の顔	1933頃	油彩・キャンバス
52	山下大五郎	平塚風景	1930	油彩・キャンバス
53		早春	1941	油彩・キャンバス
54	山本 鼎	国府津海浜より箱根連峰を望む	1936	油彩・キャンバス
55	萬 鉄五郎	海景習作	1908頃	油彩・キャンバス
56		住吉神社風景	1908頃	油彩・キャンバス
57		砂丘風景	1924	油彩・キャンバス
58	養田つや子	極楽華	1971頃	油彩・キャンバス
59	吉川 朝衣	早春	不詳	紙本着色
60	鈴木 至夫	春	不詳	紙本着色

■寄贈作品

【開催趣旨】

平塚市美術館では展覧会の他にもさまざまな教育普及活動をおこない、毎年秋には、表現の素材や画材、色などのテーマで、幅広い美術の素材・技法・表現を体験するワークショップを開催している。

今年は「金」を取り上げた。希少価値があり、また素材そのものが高価で長い時間が経過しても輝きは変わらない金は、特別な素材として扱われてきた。美術の表現の中には、金を用いた作品を数多く見つけることができる。日本美術においては、中尊寺金堂、金閣寺などの寺院の荘厳、仏像、金蒔絵の調度品、金箔を貼ってあるきらびやかな障屏画などがある。また、ヨーロッパ美術においては金箔背景の祭壇画、アクセサリーなどの装飾品や金の聖杯など、金をつかった表現は数多くのものに及んでいる。

今回は、絵画や彫刻などの美術表現の金、素材としての金、私たちの身近な生活の中の金のものなどを、さまざまな視点から考察した。

キラキラ輝くGOLD—美術館の小さな<sup>エルドラド</sup>黄金郷

レクチャー

金への情熱 — 霊柩車・金シャチ・エトセトラ—

講師 井上章一 (国際日本文化研究センター助教授)

開催日時 11月10日(日) 13:30~15:30

対象/人数 一般60名

会場 美術館講堂

申し込み 不要・無料

ブランドもののバックについている大きなロゴ、名古屋城のてっぺんで光る金シャチ、街中を走る金の霊柩車など、シンボルとして金色に光るたくさんもの。講義はユーモアを交えた楽しいもので、ミスコンテストの歴史から名古屋の金シャチについてなど多岐にわたって展開した。私たちの生活の中で目にする「金びかのもの」の話やその盛衰を文化論として語った。



講演会風景

# キラキラ輝くGOLD 美術館の小さな黄金郷<sup>エルドラド</sup>

## ワークショップ(1) 絵画の古典技法

### — 金箔地の背景に卵テンペラで描くイコン —

講師 石井 亨 (画家/修復家)

アシスタント 山田りえ

開催日時 10月27日(日) 11月16日(土) 30日(土) 12月7日(土) の4日間  
10:30~17:30

対象/人数 一般20名

会場 アトリエA・B

ヨーロッパでは中世から、絵の背景に金箔を貼り、卵テンペラで絵を描くという技法で数多くのイコン(聖像画)が制作されてきた。

今回はこの古典的な絵画技法で、ビザンチン文化の流れを汲むロシア・イコンを模写した。

- 10月27日
  - ・全体のガイダンス
  - ・布貼り
  - ・地塗り
  - ・箔置きのにりす毛の刷毛を制作
- 11月16日
  - ・地塗りと地塗り研磨
  - ・革製の箔台を制作
- 11月30日
  - ・から磨き
  - ・箔置き
  - ・箔磨き
- 12月7日
  - ・描画



# キラキラ輝くGOLD 美術館の小さな<sup>エルドラド</sup>黄金郷

## ワークショップ(2) — ゴールドラッシュ・黄金の術 —

講 師 中村哲也(芸術家)  
開催日時 11月2日(土) 3日(日) 13:00~17:00  
対象/人数 一般20名  
会 場 アトリエB

---

世の中には金色のものがたくさんありますが、それはなぜ金色をしているのでしょうか? 逆に金ではない物が金ぴかになったらそれはどんな風に見えるのでしょうか?

講師は、金箔を使って作品を制作している若いアーティストで、金色にしたら意味や見え方が変化する生活用品、置物などに金箔を貼って金に光る立体物を制作した。また、金を貼った事でものの表面の凹凸やものの形がはっきりわかることを体験した。

---

- 11月2日午後
- ・スライド上映(研修室)
  - ・参考資料(灰皿、革靴、ほうきなど)と中村講師の作品紹介
  - ・スタジオ食堂の紹介
  - ・アトリエで金を貼る方法の説明  
どんな物に貼ることができるか/貼ることができないか
  - ・漆の説明  
課題 金を貼ったら価値が変わる物、おもしろい物、なるべくばかばかしい物に金を貼る 持参すること
- 11月3日午後
- ・持参した物を見せて中村講師に相談し、漆で金箔を貼る。
- 



# キラキラ輝くGOLD 美術館の小さな黄金郷 エルドラド

## ワークショップ(3) わたしの装本ー 山羊革に金の装飾ー

講師	富田牧子(栃折久美子ルリユール工房講師) 中島郁子(栃折久美子ルリユール工房講師)
アシスタント	山田りえ
開催日時	11月17日(日) 12月1日(日) 8日(日) 13:00~17:00 12月8日のみレクチャーあり 10:30~12:00
対象/人数	高校生以上16名
会場	美術館アトリエ

ヨーロッパには中身をつくることから装本まですべてを手仕事でおこなう一点制作の本をつくる歴史があり、それは、フランス語でルリユール(製本工芸)と呼ばれている。今回は、しなやかな山羊革の表紙に金箔の型押し装飾をしたスケッチ帳をつくった。スケッチ帳の紙は水彩紙を使用した。本を金で装飾するのは、本がそれだけ貴重品であったことから始まっている。そして、今回は体験できなかったが、小口に金を貼って磨くことには、空気を遮断するという保存の意味があることなどを学んだ。

また、現在流通している本の造り(造本)について、レクチャーをおこなった。現在、大量の本が出版されているが、それらの本のほとんどが粗雑なつくりであることなど、興味深い話があった。

- 
- 11月7日 ・目引きのデモンストレーション・かがり  
・背囲め・寒冷紗貼り・クータ  
・表紙貼り用の製図デモンストレーション  
・革すきデモンストレーション(宿題)
  - 12月1日 ・革すきの点検  
・表紙貼り・背付け・見返し糊入れ  
・箔押し準備
  - 12月8日 ・箔押し
- 



エルドラド

# キラキラ輝くGOLD 美術館の小さな黄金郷

## ワークショップ(4) こどものワークショップ

— タイムマシンによって黄金の屏風の時代へ —

講 師 都築悦子(福岡市美術館学芸員)  
リ ー ダ ー 荒木夏美 永井等 森栄二 山田悦子  
開 催 日 時 11月23日(土) 13:30~16:50 24日(日) 10:00~16:30  
対 象 / 人 数 小学生24名  
会 場 アトリエB、講堂

安土桃山時代や江戸時代の金碧障壁画をテーマにワークショップを開催した。はじめに、こうした作品をスライドで上映し、レクチャーと対話で、屏風の始まり、屏風の利用法、そこに描かれた絵について理解を深めた。そして、6人ずつのグループ(春夏秋冬)に分かれて、グループ毎に六曲一隻の屏風を制作した。みんなでひとつの絵を描いたグループもあり、ひとりひとりで描いたグループもある。制作した屏風は、高さ90cmで、本物の屏風より小さいサイズ。金色の真鍮箔を貼り、粒子のある日本画風の絵具で絵を描いた。最後に講堂に部屋を移し、4作の屏風を立てて、緋もうせんをひいた。部屋を暗くして、ろうそくの光で屏風を見たら、制作していた時とは違う作品に見えた。そして、抹茶をたてて、美しい和菓子でお茶会をした。

11月23日	13:30~14:00	スタッフの紹介・グループ分け(春夏秋冬)
	14:15~14:45	スライド上映会(都築)屏風の雰囲気の简单介绍。
	14:45~16:50	金箔貼り方の説明(森)90×45cmの屏風に洋箔45枚~50枚を貼る。
11月24日	10:00~10:50	こどもが持ってきた金色のものをみんなで見る。 金の屏風について講義とスライド(都築)なぜ屏風が立つのか。 最も古い屏風の話など。
	10:50~12:00	テーマは四季。グループ毎に美術館内を散歩・植物観察・図書館へ出かけた。
	13:00~15:10	絵具と絵具の使い方の説明(森) 下絵を完成したグループもあり下絵が完成しないグループもあった。 屏風に絵を描く。共同作業でひとつづきの画面をつくったグループは3つ。
	15:15~16:50	お茶会



# キラキラ輝くGOLD 美術館の小さな黄金郷<sup>エルドラド</sup> WSCワークショップクラブ 金 (GOLD)

リーダー 当館学芸員

開催日時 10月19日(土) 26日(土) 11月9日(土) 12月14日(土)  
1月18日(土) 2月1日(土) 22日(土) 3月1日(土)の8日  
13:00~17:00

対象/人数 一般13名

会場 アトリエ他

前回の「WSC植物から生まれる色」に続き、WSCワークショップクラブ「GOLD」を実施した。WSCは、長期にわたるので、メンバー制となっている自主研究グループである。参加したメンバーの興味に基づいて、それを発展的に伸ばしてゆくことが活動となっている。

今回は、長い歴史とさまざまな意味をもつ金について調べ、最後にまとめとして、WSCレポートを制作する予定である。みんなで楽しみながら金と金をめぐる表現について学ぶ講座である。平成9年4月~5月も活動をおこない、9月にWSCレポートを発行する。

## WSCワークショップクラブ GOLDの内容

- ① 美術の金をめぐって
- ② 金の科学と歴史
- ③ ゴールド・ウォッチングー身近な金をさがす
- ④ 金についての言葉と物語
- ⑤ 金を使った制作ー砂子/日本画/金メッキ
- ⑥ 田中貴金属工業(株)見学
- ⑦ ワークショップレポートの制作と発行



キラキラ輝くGOLD 美術館の小さな黄金郷  
オープンワークショップ&資料展示

エルドラド

リーダー 武尾すなお 森栄二 山田悦子

開催日時 10月19日～12月8日の金土日 13:00～16:50

(11月8日は休館)

対象/人数 こどもから大人まで

会場 美術館アトリエA

申し込み 不要

来館者がその場で制作できる、3種類のオープンワークショップを開催した。  
また、資料展示では金や金箔に関する資料が展示された。

オープンワークショップ

①金でパッケージする小さな宝物

手で握ると隠れてしまうくらい小さなもの—貝殻、木の実など—を持参し  
金箔で包んだ。

②はがき—料紙のいろどり

砂子などで、きらきら光る模様をつけた。

③ゴールド・カード

金箔を貼ったカードをつくった。



# キラキラ輝くGOLD 美術館の小さな黄金郷 エルドラド

## 資料展示

開催日時 10月19日～12月8日の金土日 13:00～16:50  
(11月8日は休館)

開催場所 アトリエA

ここでは、開催するワークショップに関連する資料を展示し、ワークショップの参加者が理解を広げる手助けをすると同時に、美術館に資料を蓄積する。この資料展示は来館者にも公開した。今回は、ワークショップ「絵画の古典技法」や「わたしの装本」の資料、金箔の制作に関する資料などを中心に展示し、同じアトリエ内でオープンワークショップも開催した。

### 展示資料

- ・ロシアアイコン（模写）（石井亨）
- ・さまざまな金箔
- ・金箔を制作する道具 戸田惣次郎商店
- ・金箔制作のプロセス（写真）
- ・金糸の着物（平塚市博物館）
- ・重箱（平塚市博物館）
- ・酒器（平塚市博物館）
- ・蒔絵用金粉
- ・金箔押しの手製本2点（中島郁子）
- ・オープンワークショップの見本
- ・「子どものワークショップ」で制作した屏風
- ・「ゴールド・ラッシュ・黄金の術」で制作した作品



# 芸術 美術と美術館を知る

## (1) みる・きく・はなす美術鑑賞

作品を鑑賞することで美術と美術館について認識を拡大してゆくための教育的なプログラムとして主に常設展示室内およびアトリエ、またはその他の美術館の施設をつかって行った。

開催期間 平成8年5月～6月と平成9年2月～3月の間に計7回実施

リーダー 当館学芸員

対象 小学生からおとなまで3～10人のグループ

## みんなで学ぶ

(1) WSCワークショップクラブ「植物から生まれる色」

(2) WSCワークショップクラブ「金（GOLD）」

初心者対象ではないので、メンバーの中には公民館や市民センターの講師である人も多かった。WSC終了後の6月上旬、メンバーが執筆した3種類のレポートを3,000部発行し、館内受付にて無料配布した。

WSCワークショップクラブ「金（GOLD）」については18頁を参照。

開催期間 平成8年1月～5月に8回開催

リーダー 当館学芸員他

対象/人数 藍、紅花、茜に興味のある人 32人



## 初心者陶芸講座

陶土という素材を理解するために、まず土練りをすることから講座をスタートした。手捻りで作品の成形をして1日目を終了した。2日目は、高台の削りをした後、いろいろな成型法を実演を交えて説明した。3日目は、窯出した素焼の作品に釉薬を掛け、本焼きの窯詰をした。4日目、本焼き後の作品窯出をした。作品の講評と質問も受けながら4回の講座のまとめをして終了とした。

---

対象	高校生以上
定員	15名
開催日	6月2日、9日、23日、30日
時間	13:00～16:30まで
会場	美術館アトリエB

---



## 夏休み子供陶芸教室

小学生を対象にした4講座を開催した。A、Bコースを低学年のための内容にし、C、Dコースを高学年のための内容にした。A、Bではテラコッタ粘土を使いその特徴を遊び感覚のなかで楽しみながらつかむことを目的とした。C、Dでは器（うつわ）という機能を条件にした制作をした。

---

対象	小学生
定員	各コース16名
開催日	Aコース 7月23日 Bコース 7月25日 Cコース 7月28日 Dコース 7月30日
時間	13:00～16:30まで
会場	美術館アトリエB

---



## 初心者陶芸講座

初心者を対象に、基本的成形法を学び、釉薬をかけて、窯詰、窯出までを体験する陶芸教室を2講座開催した。成形法は、手練りをメインに、タタラ成形、轆轤成形などもとり入れた。

---

対 象 高校生以上

定 員 各コース16名

開催日 Aコース 2月1日、8日、15日、3月1日、8日

Bコース 2月2日、9日、16日、3月2日、9日

時 間 13:00～16:30まで

会 場 美術館アトリエB

---



## ビデオ制作

### 「保田春彦－自作を語る」

湘南ゆかりの美術家を選び、その業績を紹介するオリジナル・ビデオを制作した。平成8年度は、現代彫刻家である保田春彦氏をとりあげ、当館所蔵作品「赤錆の幕舎」を中心に、作家自身が作品およびその制作観について語った。

## ワークショップオリジナルブックの制作

教育普及活動の中で制作したワークショップテキストから、一般来館者への読み物としておもしろそうなテーマを選び、新たに解説を加えて刊行した。冊子は館内ミュージアムショップで一冊400円で販売した。

### 1 読むワークショップ⑤ ガラスのレリーフ

B6変形版 本文19頁  
解 説 端山 聡子  
イラスト 山田 りえ



### 2 読むワークショップ⑥ フレスコ画を描く

B6変形版 本文27頁  
解 説 端山 聡子  
イラスト 山田 りえ



## 図書コーナー

平塚西ロータリークラブより、図書の寄贈を受けた。

# 会場写真

## 企画展



TOKYO POP展  
(4月27日～5月26日)



生誕100年記念  
椿 貞雄展  
(7月27日～8月25日)



銅版画ひとすじの歩み  
菅野 陽回顧展  
(9月14日～10月20日)

真浮社

真画会



平塚市美術館開館5周年記念展  
ミレーとバルビゾン派の画家たち  
(11月9日～12月22日)

## 常設展



## 市民アートギャラリー

	No.	作者名	作品名	技法・材質	サイズ(cm)
絵画	1	井上三綱	水辺の馬	油彩・キャンバス	71.0×115.8
	2		乳牛三頭	油彩・キャンバス	70.0×117.3
	3		働く人	混合技法・紙	76.0×54.3
	4	二見利節	王と王妃	混合技法・紙	78.3×55.0
	5		たね	混合技法・紙	79.8×56.0
	6		基偶	油彩・板	55.8×35.0
彫刻	1	佐藤忠良	緑	ブロンズ	190.0×80.0×70.0
	2	舟越保武	海の顕彰碑・渚	ブロンズ	194.0×60.0×50.0
	3	柳原義達	座る女	ブロンズ	71.0×100.0×45.0
	4	保田春彦	赤錆の幕舎	COR-TEN鋼	257.0×296.0×209.0

- 担当者一覧
- 井上三綱作品（油彩）：黒江光彦
  - 井上三綱作品（紙）：森京子
  - 二見利節作品：森直義保存修復工房
  - 彫刻作品：山岸鑄金工房

## 収蔵庫虫害調査（虫害モニタリング）

収蔵作品を、生物被害から守るために収蔵庫内の日常的な整理整頓、除塵を心がけ、生物発見に注意した。新収蔵作品については、減圧燻蒸装置による処置を経て収蔵庫に搬入し害虫の進入防止に心がけている。専門機関による委託調査を目視による1日と、フェロモントラップ（採集器）による生物収集調査で2週間行ったが、1匹も昆虫類は捕獲されなかった。本年度も「収蔵環境の良好な保存管理が行き届いている」との調査報告がなされた。

実施期間	平成8年3月11日～3月31日
調査報告	平成8年3月31日
調査対象	収蔵庫1 552.58㎡
	収蔵庫2 25.6㎡
	特別収蔵庫 24.19㎡
調査機関	財団法人 文化財虫害研究所

# 地震対策

阪神淡路大震災による美術館博物館被害調査報告を踏まえ、当館では館内における地震被害対策として、今年度より総合的に具体的対策をたて実施に移した。

- ① 館内彫刻展示の転倒防止処置
- ② スポットライト落下防止対策
- ③ 可動ケース転倒防止処置
- ④ 収蔵作品落下防止処置
- ⑤ 展示作品落下防止処置
- ⑥ 額裏耐地震改修処置

本年度は、全体実施計画をたて優先順位に従って、①館内彫刻展示の転倒防止処置を完了させた。

設計 平塚市美術館

実施 有限会社 美術梱包ヒグチ（彫刻専門）

## ② スポットライト落下防止対策

展示室天井に5.4mグリットに設備された、配線ダクトに吊り下げられるスポットライト400灯分に装着させる、落下防止金具を設計製作委託を行い、本年度は120灯分用意した。

## ③ 可動ケース転倒防止処置

展示室天井に設備してある可動壁体を吊るすレールに、可動ケース転倒防止のための吊り元フックを設計、製作し可動ケースの天井部とテンションワイヤー装置によって結び、転倒を防止する。その吊り元金具を72セット製作した。

## ④ 収蔵作品落下防止処置

収蔵作品はラックにS字吊り金具で吊り下げられて収納されている。地震による縦方向振動によって額裏吊り元金具が外れるため、S字吊り金具は全て返し付き外れ防止金具に付け替える。

## ⑤ 展示作品落下防止処置

展示作品をワイヤーで吊るす金具の、外れ止め金具付きの対地震対策製品に切り替えをはかった。

## ⑥ 額裏耐地震改修処置

常設展示に供する頻度の高い作品から、作品額裏の点検調査を行った。収蔵作品の額装状態における自重を測定し、吊り元金具の強度と額裏の仕様について詳細な点検調査をおこなった。

調査委託 有限会社 トップアート

## 平成8年度 収蔵作品

■購入作品

作者名

前田青邨(1885-1977)

作品名

「秋風五丈原」

制作年

1920年

技法・材質

絹本墨画淡彩



# 第19回 平塚市展

---

会 期	平成8年7月2日(火)～7月14日(日)
主 催	平塚市展委員会、平塚市教育委員会
協 力	平塚書道協会、湘南工芸家協会、平塚美術協会、平塚写真連盟
後 援	平塚市、平塚文化連盟、平塚商工会議所、TVKテレビ、 SCN湘南ケーブルネットワーク
会 場	平塚市美術館（展示室I・市民アートギャラリー）

---

展示室Iに工芸部門・書部門・写真部門が、市民アートギャラリーに絵画部門の作品がそれぞれ展示された。

## 平成8年度 観 覧 者 数 (人)

月	開館 日数 (日)	企 画 展					常 設 展					合 計
		一 般	高大生	小中生	未就学	計	一 般	高大生	小中生	未就学	計	
4	24	353	46	15	12	426	763	58	29	31	881	1,307
5	27	5,672	968	588	180	7,408	4,318	547	559	97	5,521	12,929
6	24	0	0	0	0	0	751	56	163	29	999	999
7	26	521	13	178	7	719	1,237	61	396	35	1,729	2,448
8	27	4,142	147	1,031	78	5,398	3,818	150	1,075	73	5,116	10,514
9	24	798	26	29	4	857	992	62	96	22	1,172	2,029
10	26	1,701	50	250	23	2,024	1,547	41	410	17	2,015	4,039
11	25	12,909	500	534	233	14,176	8,950	296	315	127	9,688	23,864
12	22	20,593	877	789	339	22,598	14,303	563	530	172	15,568	38,166
1	21	0	0	0	0	0	666	34	100	27	827	827
2	24	0	0	0	0	0	633	36	286	62	1,017	1,017
3	26	0	0	0	0	0	581	34	30	33	678	678
合計	296	46,689	2,627	3,414	876	53,606	38,559	1,938	3,989	725	45,211	98,817

## 平成8年度 施 設 利 用 状 況

月	開館 日数 (日)	視 察 ・ 施 設 見 学						会議室等 件 数
		市 内		市 外		計		
		件 数	人 数	件 数	人 数	件 数	人 数	
4	24	1	25	2	40	3	65	3
5	27	1	15	5	200	6	215	5
6	17			4	75	4	75	3
7	25	1	15	1	17	2	32	6
8	25	1	22	1	54	2	76	4
9	24	1	12	2	26	3	38	4
10	26			5	120	5	120	8
11	25	13	332	14	228	27	560	5
12	19	2	60	3	63	5	123	4
1	19	1	40	3	49	4	89	6
2	23							8
3	25			3	28	3	28	5
合計	279	21	521	43	900	64	1,421	61

## 平成8年度 学校団体観覧利用者数

		常 設 展			企 画 展 ・ 常 設 展		
		学校数	児童生徒数	教員数	学校数	児童生徒数	教員数
小学校	市内	10	791	31	6	405	14
	市外	1	131	6			
中学校	市内	12	200	37	8	152	13
	市外	0	0	0			
高 等 学 校		1	7	2	1	10	2
小 計		24	1,129	76	15	567	29
養護学校 中					1	16	12
合 計		24校	1,168人	78人	16校	583人	41人

## 平成8年度 市民アートギャラリー利用状況

月	展覧会 開催日数 (日)	利用 団体数 (件)	入場者数 (人)	展 覧 会 名
4	24	6	3,682	湘南芸術家協会展、すってん展、増子ミヨ油絵展 井上智展、パンの花展、湘南市民美術展、草月尚美会野外作品展
5	27	7	6,587	湘美展、F E E L - フィール-展、草月流尚美会植物素材によるレリーフ展、第4回パレットの会絵画展、押し花アート&ヨーロッパ フラワーアレンジメント、寂静会「想展」、第27回平塚書道協会展
6	17	3	2,394	湘南写真家協会展、鎌倉彫り朱の会展、楽窯会作品展、伊藤尚美展
7	25	3	4,930	第19回平塚市展、第17回圓心流画道展、青い鳥アートスクール アールヴィヴァン美術展、第6回ヴィヴィラヴィアートフォーラム展
8	25	5	4,184	第14回神奈川県筆友書道連盟公募展、第25回大門書悠会展、 第12回入木会作品展、爽実展、
9	24	6	4,357	神奈川現展、第3回全国七夕競書大会、茂田綾子展、第1回芸術の秋 アマチュア絵画コンクール展、第9回三軌会神奈川支部展、第32回J R P写真展
10	26	5	5,106	水美日彩会展、夢前・松煙美術館、平塚美術協会展、MOA 美術館平塚児童作品展、第44回平塚市文化祭
11	25	5	10,836	第6回円心流画道花の実会展、藤村弘子ファミリー展、 ギャラリーOCTオクトアトリエ総合展、市内中学校絵画展 市内幼少図工作品展
12	19	6	10,423	刺繍展「それぞれの詩」 日本画第8回なでしこ会展、おし ばな「梢」の会、神奈川大学平塚キャンパス写真部学外展、 ひまわりの会展
1	19	4	2,691	グーチョキパー展、第57回平塚書道協会書初展、平塚市保育園絵画展 岡村工房陶芸教室展、
2	23	4	2,636	波の子造形教室作品展、97造形絵画作品展、
3	25	8	3,586	青陶会作品展、その絵の会、フローラルアート学院展、 第12回遊き会陶芸サロン展、ASSEMBLAGE 3展 樟の会水墨画作品展、染織紬展
合計	280	62	61,412	

## 平成8年度までの 市民アートギャラリー入場者の推移

平成2年度	(1)件	3,265人(市民美術展H3.3.27~)
平成3年度	41件	61,152人
平成4年度	50件	71,107人
平成5年度	52件	60,426人
平成6年度	56件	61,948人
平成7年度	61件	62,632人
平成8年度	62件	61,412人
<hr/>		
総計	323件	382,242人

# 沿革

- 1984年 5月 美術館建設研究委員会発足（庁内）
- 1985年 7月 平塚市美術館基本構想策定委員会設置  
（1986年まで8回開催）
- 1986年 3月 「平塚市美術館基本構想策定」答申
- 1986年 4月 美術館建設基本計画策定連絡協議会設置（庁内）
- 1986年 9月 「平塚市美術館建設基本計画」策定
- 1988年 4月 美術館建設準備室設置
- 1989年 6月 美術館建設 起工
- 1990年 10月 美術館本体工事 竣工
- 1990年 12月 平塚市美術館条例 公布
- 1991年 3月 平塚市美術館 開館
- 1996年 10月 平塚市美術館開館5周年記念展  
「ミレーとバルビゾン派の画家たち」

## 運営・組織

### 美術館協議会

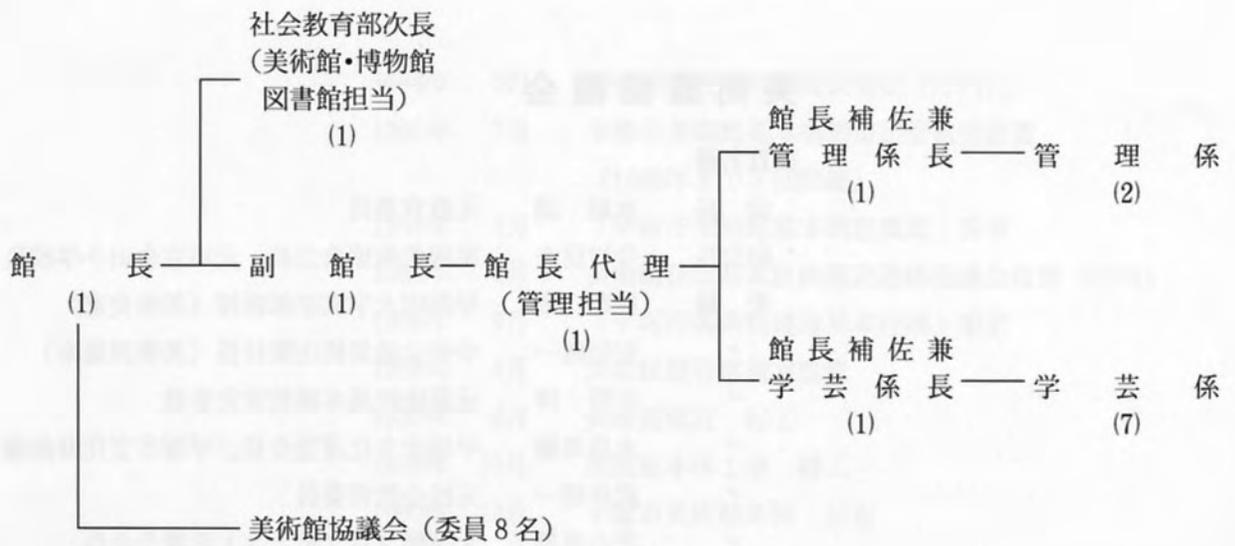
#### 委員名簿

会長	水越 謙	元教育委員
副会長	今村信夫	平塚美術協会会長、元市立金田小学校長
委員	村重 寧	早稲田大学文学部教授（美術史家）
”	安田建一	中央公論美術出版社長（美術評論家）
”	平野 博	元美術館基本構想策定委員
”	水島英耀	平塚市文化連盟会長、平塚市文化財保護委員
”	武井徳一	元社会教育委員
”	芝山恵美子	元国際ソロプチミスト平塚会会長

#### 協議会の開催

平成8年7月31日（水）	（美術館研修室）
	1 平成7年度事業報告について
	2 その他
平成9年3月18日（火）	（美術館研修室）
	1 平成8年度事業経過報告について
	2 平成9年度事業予定について
	3 その他

## 組 織



## 職員名簿

館長	原田 実
社会教育部次長 (美術館・博物館 図書館担当)	星崎 孝夫
副館長	古谷 勇
館長代理 (管理担当)	亀谷 幸藏
館長補佐兼 管理係長	湯口 進一
管理係	添田 勝子 高橋 秀夫
館長補佐兼 学芸係長	森田 英之
学芸係	岡部 幹彦 小松崎拓男 石渡 尚 鈴木 幹 端山 聡子 小池 光理 曾我 政弘

平成8年度

## 平塚市美術館年報

発行 平塚市美術館

〒254 平塚市西八幡1-3-3

Tel 0463 (35) 2111

印刷 (株)興版印刷

Tel 0463 (32) 1899

平塚市新町7-15

平成9年9月17日発行